1992年7月
ニュース
No. 27

日本工学アカデミー広報委員会
事務局：〒140 東京都品川区大井1-49-15
（住友生命大井町ビル8階）
TEL：(03) 3777－2941
FAX：(03) 3777－4941

ＣＡＥＴＳ管理理事会

－ＣＡＥＴＳの管理理事会は Convocationが終了した翌日５月23日にデンマーク工業連盟（Federation of Danish Industries）の会議室で開催された。日本のアカデミーとしては２回目の管理理事会であったが，向坊会長の他，中川副会長と桜井が出席した。（前回は末松理事が日本工学アカデミー代表として出席。）

－会議はデンマークのRasmussen 会長を議長として開会，議事次第，前回議事録を承認した後，英国のアカデミーの呼称が７月１日に Fellowship から Royal Academy に改称されるとの報告を受け了承した。

－次いで Convocationの計画について先ずデンマークの代表から今回の Convocationについて最高 150人迄の参加で準備したが 128人の参加で順当な数であったが，度重なる要請にも拘らず，ドイツとオランダの参加がなかったことが残念だったこと，会議の存在と議論の内容はＰＲしたいが，Convocation としての統一した主張が出来るわけでもないので，会議の紹介にとどめた発表をしたとの報告あり一同了承した。またプログラムの編成に当たり講演者に主催者の意図を正しく伝えることが大切な事が判ったとの反省の弁があった。（ニュース26号（前号）Convocation の報告御参照）

－この報告の後，今後の Convocationの運営方法について各国代表から活発な意見の交換があり，10回と11回は今回同様でやるが，12回以降については更に管理理事会で議論を進める事になった。

－第10回，スイスでのConvocationについては，Luc Tissot準備委員長から準備が順調に進行している旨説明があったが，詳細はニュース本号の関係記事を御参照頂きたい。

－第11回スウェーデンの Convocationについては，1995年の６月中旬に北緯68°のKirunaの近くで本年６月のリオデジャネイロでのＵＮＣＥＤ（地球サミット）の結果も踏まえて環境問題を中心議題に開催したいとの説明があった。Kirunaには大きな鉄鋼山とロケットの発射場があり６月中旬は白夜のシーズンで，蚊群の襲来は７月以降なので，これらの要素から場所と日取りを決めた理由であった。

－第12回（1996年秋）はメンバーや東欧を中心としたゲストの増加で運営の仕方を変更せざるを得ないかも知れないが，一応幹事アカデミーを英国とすることで決定した(従って日本でConvocationを主催しなければならないのは最も早くても1998年の春となり現在そのような事態に備えて準備した原資は当面他の大型プロジェクトに活用可能と考えられる。)

－次いでＣＡＥＴＳ新入会員の資格に「一般的にはアカデミーが設立されてから５年以上経過していること」を条件とする事が提案され了承されているが，この文言を規約に入れるべきかどうかについては，米，英，豪の強い主張でこれを規約に加え次回の管理理事会で規約改正を承認する事となった。

－ＣＡＥＴＳの各種の活動については中東欧援助，留学生援助，フィンランドアカデミーの賞等の成り行きについて報告があった。

－次いで会計状況について簡単な報告があり，前回の管理理事会で議決された中東欧援助に関連して，ＣＡＥＴＳメンバー各国の技術援助のシステムや連絡先を紹介した冊子が編集最終段階になったが（日本の分については桜井が調査協力した），これの頒布費用（主として送料）を各アカデミー 200ドルづつ拠出して欲しいとの要請あり，了承された。

－次に追加議題として本年６月開催のＵＮＣＥＤ（地球サミット）への対応，特にＷＦＥＯ(The World Federation of Engineering Organizations) を中心として提唱されている The World Engineering Partnership for Sustainable Development とその Strategic Plan（資料当日配布）に参加したり，積極的に後援したりするかについて激論があったが，

提言の内容がＣＡＥＴＳの場で議論されていないばかりでなく今ＣＡＥＴＳとして動き出す時ではないとの慎重論が取り入れられ，ＣＡＥＴＳとしてはＵＮＣＥＤにObserverとして登録はしたがこのような動きは評価はするが積極的にある特定の立場を取ることはしないとの結論になった。

－またＵＮＥＳＣＯの担当部長から来年６月23日から25日迄開催予定の工学部長と産業界の指導者の国際会議に諮問委員等として協力して欲しいとの要請があったがこれについては更にＵＮＥＳＣＯ側の企画を詳細に聞いてから決めることになった。

－最後に次期ＣＡＥＴＳ会長にスイスのLuc Tissot氏，副会長にスウェーデンのHans Forsberg 氏を選出し，次回管理理事会を来年(1993年)１月８日（金）にアメリカNewprot Beach（ロスアンゼルス郊外)で開催する事を決定して閉会した。（文責　桜井宏）

第10回ＣＡＥＴＳ Convocation 準備 Workshop

－第９回 Convocationの前日５月19日にスイスアカデミーの主催で首記第10回 Convocationのプログラム作りのためのWorkshopが開催された。日本からは昨年から本件を担当して居られた井口会員が所用で出席出来なかったので桜井が代理参加した。

－Tissot氏は次回の Convocationのテーマは Transportationであるが，単に輸送問題について意見を交換するばかりでなく，技術者の新しいパラダイムを築く事に寄与したいとの意向を表明し，技術ばかりでなく経済や環境も加えた広い見地から短期的，長期的に何が出来るかの結論にもって行ける様な会議にしたいとの基本方針の提示があった。

－次いでプログラムの詳細についての討論に入りスイスアカデミー提案の原案に若干の変更（中には相当本質的なものもあった）を加えて承認したが，出席者一同，ＵＮＣＥＤ（地球サミット）の結果によって若干の修正ある事で諒解している。

－プログラムは

第Ｉセッション　世界の現状と進歩

1）輸送の社会への貢献と生活や仕事の要素としての輸送

2）輸送と環境

3）発展途上国の交通開発

第Ⅱセッション　将来の技術

4）航空

5）道路

6）鉄道

7）海上（水上）輸送

8）異種輸送モードの組合せ

第Ⅲセッション　経済と輸送

9）輸送の真のコストと価格政策の影響

10）中期的戦略

11）長期的戦略

第Ⅳセッション　戦略と結論

12）会議のコンセンサス

13）討論

ということで合意した。

－講演者は11の項目について13人程度を用意し，誰に何を依頼するかについては，スイスのアカデミーで下準備をした後６月末迄に各メンバーに協力を要請，各メンバーは講演者名の案と，先方から示唆されている各題目についての内容のうち何を中心に論ずるかを９月中旬迄に回答する事になっている。

－ Convocationは９月14日(火)の夕方の reception から始まり，15日と16日で第Ｉ，Ⅱ，Ⅲセッションを完了，17日（金）は午前中を休みとして，この間にRapporteurを中心に午後の結論を用意する（この間に管理理事会を開く事をWorkshopから提案，23日の管理理事会で確定した。）17日（金）の午後に第Ⅳセッションを開き，18日（土）は見学会で，提案されているスイス縦断新高速鉄道トンネル予定地を現鉄道とバスで往復するツアーが予定されている。

追記

第10回 Convocationに対する日本工学アカデミーとしての対応は地球環境専門部会（部会長清山哲郎会員）交通運輸対策第４ワーキンググループ（主査井口雅一会員）で対応する事になって居り既に上記スイスアカデミーよりの要請も受領し準備を進めている。

（文責　桜井宏）

森田正俊さんを偲ぶ

トヨタ自動車株式会社　隈部英一
（日本工学アカデミー会員）

わが国で「産学官協同研究」とか，「人脈作り」の重要性が叫ばれ出してから久しいが，此等について自ら常に先頭に立ち，我々を導いて下さったのが森田さんだった。森田さんは，トヨタ自動車，豊田中央研究所の業務が大変お忙しかった中でも，社外の諸団体活動にも積極的に参加しておられた。日本工学アカデミー会員・理事。学術振興会の諸委員への参加，自動車工業会，各官庁委員会での諸活動，自動車技術会会長，日本ファインセラミックスセンターの創設等々枚挙に暇がない。特に本アカデミー理事会には都合のつく限り熱心に出席され，良い御意見を出して居られた。又筆者にとっては森田さんのお伴をして，米国・ヨーロッパの諸研究団地巡りをし，ＦＩＳＩＴＡ＝国際自動車技術者連盟＝国際会議に何度か参加して，その都度，例の「とつとつ」とした話し方で何時の間にか得るべき情報はしっかり聞き出し，同時に人脈を確保される様を見て，大変勉強させて戴いた事が想い出される。そしてそれを支えるエネルギー源となったのが，時間をかけて大変おいしそうに飲まれるレモンの皮の薄切り入りのウィスキーの水割りだった。今後とも適量の水割りを飲まれながら我々の行く道をお示し戴きたいとお願いして追悼の文とする。　合掌

日本工学アカデミーの会議に
参加中の故森田理事

講演会－第44回談話サロン「ブラジルでの地球サミットに参加して」

日　時：平成４年７月10日（金）
場　所：弘済会館
講　師：石　弘之　氏
　　朝日新聞社編集委員

本年６月末に世界の多くの国々のトップリーダーが集まって，ブラジルのリオ・デ・ジャネイロで開催された国連環境開発会議について，現地で会議に参加され取材された講師よりその開催までの背景，会議の結果，日本に対する影響，今後の展開の予定等について，講師の環境問題に対する深い知識とベテランジャーナリストとしての卓越した観察に基づいて，非常に興味深い話があった。

更に講演の最後の部分で，スライドで紹介された世界各地，特に発展途上国に於ける環境劣化の実態は，出席各員各位が地球環境問題を考えるに際して非常に参考となるものであった。

また，講師の環境問題についての率直なご意見も，オフレコとして述べられ出席会員との討論も核心を衝いたものが多く，極めて有益であった。

当日は本講演会を企画された，地球環境専門部会の第１ワーキンググループ（温室効果ガス対策，主査清山会員）の会合に連続して同じ会場で行われた関係もあって，出席会員も61名と多く極めて盛会であった。

（文責　桜井　宏）

講演会　「フロン問題解決のための今後のシナリオ」

日　時：平成４年６月17日（水）　14：00
場　所：九州産業技術センター会議室
講　師：内　野　哲　也　氏
　　日本工学アカデミー理事
　　旭硝子株式会社常務取締役開発本部長
主　催：日本工学アカデミー地球環境専門部会，九州産業技術センター

地球環境専門部会では九州産業技術センターと共催で，去る６月17日福岡市で「フロン問題解決のための今後のシナリオ」と題して，内野哲也会員による講演会を開催した。主題についての，日本での最高の権威の一人である内野会員の話という事で会場は満員で講演会の質疑応答も活発で盛会であった。

内野会員はフロンガスによるオゾン層破壊を防ぐための代替品の開発を中心に問題全般を分かりやすく説明され，アカデミー会員８名を含む50名近い出席者に多大の感銘を与えた。

この様な地方でのアカデミー行事は地方在住の会員がアカデミーの活動に直接参加する機会でもあり，又地方の関係者にアカデミーの存在をＰＲするのにも良いと思い企画したものである。

（文責　清山　哲郎）

講演：内野哲也氏

司会：清山哲郎氏

談話サロン開催予定

第45回談話サロン（九州地区懇話会）
　日　時　　平成４年10月９日（金）
　場　所　　福岡市中央区天神ガーデンパレス
　講　師　　生井武文会員（東亜大学学長）
　テーマ　　「これからの工学と工業」

講演会－第46回談話サロン
　日　時　　平成４年９月16日（水）
　場　所　　東京・弘済会館　千代田区麹町5-1
　講　師　　井上英夫氏（工業技術院機械技術研究所生産システム部長）
　演　題　　「エコファクトリー」（仮題）

講演会－第47回談話サロン
　日　時　　平成４年９月25日（金）
　場　所　　東京・弘済会館　千代田区麹町5-1
　講　師　　Dr. Julian Szekely（米国MIT 教授）
　演　題　　“Some Thoughts on U.S.-Japanese Relationship in Engineering, Issues in Research, Competitiveness and Education”（講演は日本語で行われます）

国際会議のご案内 ー第3回米国技術経営国際フォーラム（ロスアンゼルス）

1992年10月11－14日に第３回米国技術経営国際フォーラムがロスアンゼルスで開催され，広く日本の産業界の方々の参加案内が参っております。この国際フォーラムは，アメリカのPepperdine大学技術経営学部の主催でありますが，ＪＥＴＲＯも後援しており，昨年第２回国際フォーラムが欧州でも成功裡に開催されております。

本件については，日米の科学技術交流と経済摩擦の解消，日米間の相互理解を深めるために大変重要であり，植之原本アカデミー国際委員長が基調講演をされることになりました。本年７月から米国スタンフォード大学客員教授の児玉文雄先生（本アカデミー会員）もテクニカル・セッション（座長，依田本アカデミー国際委員）に出席される予定です。

本フォーラムプログラム等詳細については本フォーラムの企画に参画して居られる依田直也会員迄直接お問い合わせ下さい。連絡先は

株式会社東レ経営研究所
代表取締役社長　依田直也
〒279　浦安市美浜1-8-1
Tel　0473-50-6146
Fax　0473-50-6083

新人会員の紹介

第１分野	杉浦　英男	㈱山種産業常勤監査役
第２分野	市原　博	国際電信電話㈱代表取締役社長
	杉野　昇	㈱三菱総合研究所常務取締役
	（辻内　順平）	第６分野再掲
第３分野	（川崎　雅弘）	第７分野再掲
	岸本　昭	東洋製罐㈱専務取締役
	平井　敏雄	東北大学教授（金属材料研究所）
	山下　晋三	京都工芸繊維大学名誉教授，関西ゴム技術研究所長
第４分野	伊藤　學	埼玉大学教授
	（石井　吉徳）	第５分野再掲
	岡田　恒男	東京大学生産技術研究所所長・教授
	瀧山　養	
	松本順一郎	日本大学教授
第５分野	石井　吉徳	東京大学教授（資源開発工学科）
	久能　一郎	東洋鋼鈑㈱代表取締役社長
	（平井　敏雄）	第３分野再掲
	古野　知祐	三菱マテリアルシリコン㈱代表取締役社長
第６分野	辻内　順平	千葉大学教授
第７分野	川崎　雅弘	新技術事業団専務理事
	（杉浦　英男）	第１分野再掲
	（杉野　昇）	第２分野再掲

（計15名）

外国アカデミー等出版物リスト

以下のリストは事務局に届いている外国の工学アカデミー等の出版物です。御覧になりたい方は事務局までお申し出下さい。

ATS Handbook 1991. Australian Academy of Technological Sciences and Engineering Ed., Brown Prior Anderson Pty Ltd., 1991. 113pp.

Australian Competitiveness – The Vital Role of Technology. Proceedings of the 1991 Invitation Symposium, Australian Academy of Technological Science and Engineering, October 15, 16 & 24, 1991. Camberra & Sydney, Brown Prior Anderson Pty Ltd., 1991. 253pp.

Biochemical Engineering for 2001. Furusaki, S., I. Endo & R. Matuno, Eds. Proceedings of Asia-Pacific Biochemical Engineering Conference 1992, April 12–15, 1992, Yokohama. Springer-Verlag, 1992. 847pp.

Cross-Border Technology Transfer to Eliminate Ozone-Depleting Substances. Report on the International Workshop on Technology Transfer to Eliminate Ozone-Depleting Chemicals, April 22–25, 1991, California. Washington, D.C., National Academy Press, 1992. 95pp.

Engineering as a Social Enterprise. Sladovich, H.E. Ed. Washington, D.C., National Academy Press, 1991. 113pp.

Environmental Concerns – An Inter-disciplinary Exercise. Hansen, J. Aa. Ed. (September 17–20, 1990). Denmark, London and New York, Elsevier Applied Science, 1991. 297pp.

The Government Role in Civilian Technology – Building a New Alliance. Washington, D.C., National Academy Press, 1992. 165pp.

Harnessing Engineering and Technology for Economic Growth – Opening the Dialogue Between the Engineering Communities of the East and West. Summary Report of Conference Held in Budapest, Hungary 4–6 June, 1991. CAETS, 1991. 29pp.

High Technology in Finland 1991. Rautsara, A. & P. Rytilä Eds. The Finnish Academy of Technology, 1990. 128pp.

People and Technology in the Workplace. NAE/NRC, Washington, D.C., National Academy Press, 1991. 323pp.

Reorientation of the Research Capability of the Former Soviet Union – A Report to the Assistant to the President for Science and Technology. Results of a Workshop on March 3, 1992. Washington, D.C., National Academy Press 1992. 27pp.

Technology & Economics. Papers commemorating Ralph Landau's service to the National Academy of Engineering. Washington, D.C., National Academy Press, 1991. 128pp.

Women in Science and Engineering: Increasing Their Numbers in the 1990s. National Research Council's Committee on Women in Science and Engineering Ed. Washington, D.C., National Academy Press, 1991. 152pp.

〔ニューズレター・年報〕

ATS Focus (Australian Academy of Technological Sciences and Engineering Newsletter). No. 70, Jan./Feb. (1992).

ATV (Danish Academy of Technical Sciences) Annual Report 1991/92.

Building and Civil Engineering Research Focus (Newsletter). Oct. (1990) – Jan. (1991), London.

Civil Engineering Research Newsletter Nos. 6–9 (1988–1989), London.

The Fellowship of Engineering Annual Report (1986/87–1990/91), London.

The Fellowship of Engineering Newsletter. Spring (1988) – Summer (1992), London.

Fellowship News. Autumn, Winter (1987), London.

IVA Newsletter (The Bulletin of the Royal Swedish Academy of Engineering Science). Dec. (1987), Mar. Dec. (1988), Dec. (1989), Dec. (1990), June, Dec. (1991). Jan. (1992).

Newsletter / The Canadian Academy of Engineering. Summer (1989), Winter (1991), Spring (1992).

Newsletter / Indian National Academy of Engineering. Vol. I, No. 2, Dec. (1991); Vol. II, No. 1, Apr. (1992).

SATW (Schwizerische Akademie der Technischen Wissenschaften) Bulletin. 3 (1989).

名簿訂正

森　田　正　俊　会　員

日本工学アカデミー理事
株式会社豊田中央研究所常勤監査役

平成4年7月16日逝去　享年74歳

謹んでご冥福をお祈りいたします。

編集後記

本年4月，傍島事務局長からバトンタッチして，この事務局に赴任して3ヵ月が過ぎました。白濁とした中にも，仕事の全容が徐々に明るみにでてくるにつれて，前任者の5年間における基礎づくりのご苦労と卓越した能力をしみじみと感じております。と同時に敷かれた軌道に乗せて，今後，当アカデミーをますます発展，充実させていくよう尽力しなければならない責任を痛感しています。

先頃，会員から有意義なご意見が寄せられました。さっそく関係のある専門部会へ内容をご連絡致しました。これからも会の運営，事業の内容等，お気付きのことがありましたら，事務局をプリズムの屈折点として忌憚なく，お考えやご意見を頂ければ幸甚です。

ニュース第27号をお届け致します。本号には，国際活動関係が多くなりました。これからも，皆様のお役に立つニュースになるよう，スタッフ一同頑張る所存です。

（編集子）